

〈解答〉

- ① 1 [例] 年貢の取り立て
2 ウ
3 座 (漢字1字指定)
4 武家諸法度
5 ア
6 エ

配点 ① 2, 5は各1点, 他は各2点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 源頼朝は、東日本の荘園や公領の支配権を朝廷から認められ、さらに、対立した弟の源義経を捕らえる口実で、国ごとに守護を、荘園や公領ごとに地頭を置くことを、朝廷に認めさせた。守護は、その国の御家人を統率する軍事や、重罪を取り締まる警察の役目を持ち、地頭は、土地の管理や年貢の取り立てを行った。
- 2 1338年、足利尊氏は新しい天皇を即位させ (北朝)、征夷大將軍となって京都に幕府を開いた。吉野 (奈良県) に逃れた後醍醐天皇も自分の正統性を主張したため (南朝)、全国の武士は二つの勢力に分かれ、60年近く戦いが続いた。この時期を南北朝時代という。アは室町時代末期、イは安土桃山時代、エは江戸時代初期の社会の様子である。
- 3 織田信長は、まず、関所を廃止して自由な交通を可能にし、道路を広げて商品の流通を盛んにした。さらに、楽市令を出して特権的な座をなくし、市場での税を免除して商工業を活発にさせた。
- 4 江戸幕府は武家諸法度を定め、築城や大名どうしの結婚などに制限を設けた。これに違反した大名や、幕府の方針に従わなかった大名などに対して国替や藩の取りつぶしなどを行って大名を統制した。
- 5 アは田沼意次が行った政策で、田沼は、年貢だけにたよる従来の政策を転換し、発展してきた商品の流通や生産から得る利益によって財政の立て直しを図った。しかし、幕府中心の政策やわいろの横行への批判が高まり、さらに、東北地方の冷害や浅間山の噴火などによる天明のききんで、百姓一揆や打ちこわしが数多くおこるようになったため、その責任をとり、老中を退いた。
- 6 元大阪町奉行所の役人大塩平八郎は、人々の苦しむ姿を見かねて、1837年に乱をおこした。高野長英は、幕府の対外政策を批判して開国論を唱え、処罰された。土一揆は、農民の自治組織である惣をもとにして年貢の軽減や、徳政を要求して、立ち上がった民衆の抵抗である。15世紀に近畿地方を中心に多く発生した。